

高等学校における進路指導の実践

—平成15年度進路指導講座資料の分析—

戸塚唯氏・深田博己・児玉真樹子

Activities of career guidance in high schools

—An analysis of reports collected at the career guidance seminar in 2003—

Tadashi Tozuka, Hiromi Fukada, and Makiko Kodama

本研究の目的は、広島大学において行われた平成15年度進路指導講座の資料（高等学校の進路指導教諭などが作成したもの）から、高等学校の進路指導活動の傾向を明らかにし、生徒の職業観・勤労観を促進するための効果的な活動を見いだすことであった。まず高等学校における進路指導の全体的な傾向を明らかにするために、各学年の様々な進路指導活動の割合を算出した。その結果、1年次には職業人による講演会が、2年次には上級学校見学といった活動が多く行われることが示された。3年次には進学指導や就職相談などは比較的多く行われていたが、本来的な進路指導活動はあまり行われていなかった。次に、資料に挙げられていた活動のうち、特徴的で効果的だと思われる活動事例について報告した。これらの活動事例を参考にすることによって、高等学校におけるより効果的な進路指導が実現すると期待される。

キーワード：進路指導，講演会，上級学校体験入学，高等学校

1. はじめに

近年、高等学校を卒業した後に無業者（いわゆるフリーター）となる者や、高等学校卒業後いったん就職してもすぐに離職したり転職したりする者（早期離転職者）が増加している。例えば、文部科学省（2003a）によると平成15年3月の高等学校卒業者のうち進学も就職もしなかった者¹⁾は13万3千人（卒業者に占める割合は10.3%）に上っているし、厚生労働省（2002）によると平成10年度新規高卒就職者の就職後3年以内の離職割合は46.8%に上っている。このようなフリーターや早期離転職者の増加は、深刻な不況が一つの原因であると思われるが、原因はそれだけではないだろう。近年の若者の軽率で安易な職業選択、職業観や勤労観の未確立、職業的アイデンティティ（職業に関して持つ自分らしさの意識）の未確立なども大きな原因だと思われる。国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）も、高校生の職業意識の形成が十分なされていないことを指摘して

¹⁾ 家事の手伝い、外国の学校・職業能力開発施設等へ入学・入所した者を含む。

いる。

職業意識が不十分な状況で軽率な職業選択をし、後日、転職・離職を余儀なくされることは、当人の能力開発、自己実現を阻害しかねない。またフリーターの増加は社会の労働生産性を抑制してしまう可能性もある。このような事態をできるだけ避けるためには、在学中から生徒に職業観・勤労観を十分に形成させ、適切な職業選択ができる能力を形成させることが重要である。高校生の職業観・勤労観を育成するための教育は、現在のところ進路指導の枠組みで行われており、様々な活動が試みられている。ただ進路指導は、地域性や生徒の質、時代によって様々なバリエーションが求められるものであるため、多くの学校では自校に適した進路指導の在り方を確立するのに苦慮しているように思われる。このような状況の中で、進路指導の中核となる者の資質向上を図るため、平成15年度進路指導講座が開催された（於広島大学）。受講者は西日本の各府県教育委員会・市町村教育委員会等の進路指導担当指導主事及び中学校・高等学校の進路指導担当教諭等であり、参加にあたって受講者は各学校（各府県）の進路指導に関するレポートを科せられていた。これらのレポートは、進路指導講座の為に作成された資料であるが、実際に行われた特色ある進路指導の試みやその結果が記載されており、進路指導の資料として非常に貴重である。そこで本研究ではこれらのレポートの内容を整理した上で、特徴的な進路指導の試みを紹介する。なお中学校、高等学校、教育委員会のレポートの内容は大きく異なっており、同列に論じられないと思われたことから、本研究では高等学校のレポートについてのみ分析・報告する。

2. 進路指導

2.1 定義

文部科学省（2003b, p.140）は、進路指導を「生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身につけることができるよう、指導・援助すること」ととらえており、さらに高等学校における進路指導については、「生徒が自らの意志と責任で進路を選択決定することができるよう指導していくことが必要」と述べている。これまで進路指導は就職指導と同義と考えられることも多かったが、進路指導の主要な目的は、適切な職業選択をするための、生徒の能力を開発・促進することである。

2.2 進路指導で育成すべき生徒の能力

職業教育・進路指導研究会は、進路指導において育成すべき生徒の能力を提唱している（仙崎, 1998の報告による）。すなわち、①キャリア設定能力、②キャリア情報探索・活用能力、③意思決定能力、④人間関係能力の4つである。またこの枠組みを用いた高等学校における進路指導実践項目リストも作成されている（大池, 1998の報告による。計12の下位能力を含む。表1）。このリストは、教員が進路指導の目的・概略を把握する上で非常に重要であり、進路指導を実践する上で有用であると思われる。

表1 高等学校における進路指導実践項目リスト(大池, 1998を一部改変のうえ転載)

キャリア設計能力	<p>【生活上の役割把握能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習と将来の生き方が関連付けられる ・生活や仕事を, 将来の進路を意識して変えられる <p>【仕事における役割認識能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働環境や雇用スタイルなどが理解できる ・働くスタイルやライフスタイルを, 自分の生き方として考えられる ・雇用の変化, 役割の変化を追うことができる <p>【キャリア設計の必要性及び過程理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮定した職業について, 自分の行動プランや仕事内容などが描ける ・ライフスタイルを考え, 人生設計を立てられる ・社会に役立つ自己の使命を考える
キャリア情報探索・活用能力	<p>【啓発的経験への取り組み能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会, サークル活動に積極的に参加することを通して, それぞれの仕事に対応することができる ・職場訪問を通して, 職業についている人たちの技能や生き方にふれ, いろいろな仕事に対応できる技能を身につける <p>【キャリア情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の仕事に関し, 幅広く情報を得ようとする ・自分の進路を, 企業訪問や上級学校調査等を通して, 検討できる また, 検討した上でも調査活動ができる ・調べたことを自分の考えを交えて発表できる <p>【学業と職業とを関連付ける能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路に関連したことを積極的に学んでいける ・生涯学習の必要性が理解できる <p>【キャリアの社会的機能理解能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業や雇用の変化をとらえ, 自己の職業生活と結び付けて考える ・社会の動向にとまなない, 職業のあるべき姿や将来性に興味をもつ
意思決定能力	<p>【意思決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛藤場面に対し, 選択肢をあげ, 問題点を明確化し, 最適化を図る意思決定の一連の過程が理解できる ・決定したことに対し, 責任をもち, 評価を加え次の意思決定の過程に生かせる ・自己の悩みを分析し, 最善の決定に向け, お互い相談しあえる <p>【生き方選択能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路にそって, 選択教科や学ぶコースを選べる ・進路の希望と現実とを関連させ, 修正, 調整できる ・個性を生かす生き方が検討できる <p>【課題解決・自己実現能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決が次の課題発見, 解決へと結び付けられる ・トラブルを予想し, 自己の役割や将来の生き方を考えていくことで自己を生かしていくことができる
人間関係能力	<p>【自己実現・人間関係尊重能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さや成長を評価できる ・自分自身をいいも悪いも受け入れられる ・自己アピールができ, その評価ができる ・自己実現, 人間関係尊重が将来有効であることがわかる <p>【人間関係形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人の良さを吸収していくことができる ・異年齢集団のなかでも, チームが組め自分の力が効果的に発揮できる ・コミュニケーションをとりあえる ・お互いに支えあっていくために自分の役割が果たせる ・リーダーとフォロアーの立場が理解でき, 相手の能力を引き出し, チームで仕事ができる

3. レポート内容の分析

高等学校のレポート（42部）に記述されていた進路指導活動の内容を学年別に分類した（表2）。なお、これらのレポートは、特に様式が決められているものではなかったため、実行している進路指導の全体像が書かれているものもあれば、実行している進路指導のうち特筆すべき活動に焦点を絞って書かれているものもあった。つまり、実際には当の活動を行っているにもかかわらず、レポートには記載されていない場合が存在していると思われる。そのため、表2は学校現場の実際をそのまま反映したものではないが、この表から高等学校における進路指導活動の大まかな傾向が把握できるだろうと思われる。

表2 学年別の進路指導における各活動内容の割合

活動	1年次	2年次	3年次
職業調べ	14.7%(5)	5.9%(1)	20.0%(2)
職場見学	11.8%(4)	11.8%(2)	20.0%(2)
職業人による講演会	23.5%(8)	11.8%(2)	20.0%(2)
職場体験(インターンシップ)	8.8%(3)	23.5%(4)	0%(0)
適性検査	20.6%(7)	17.6%(3)	20.0%(2)
上級学校見学	20.6%(7)	29.4%(5)	20.0%(2)
計	100%(34)	100%(17)	100%(10)

注1) 上表の割合は、各学年の全活動の総度数を分母として算出した。

注2) 括弧内の数値は度数である。

注3) 各学年において2つ以上の活動を報告している学校もあった。そのような場合には、報告された全活動についてそれぞれ度数1をカウントした。

集計の結果、1年次には講演会、適性検査、上級学校見学といった活動が比較的多く報告されていた。職業についての関心を喚起する講演会や適性検査は、1年生の活動として妥当なものであろう。一方、上級学校見学を1年次で行うことは時期尚早な感もあるが、これを行っている学校は生徒自身に早くから具体的な将来展望を持たせることを狙っているのかもしれない。2年次では上級学校見学、職場体験(インターンシップ)が比較的多く報告されていた。職場体験は、生徒が自分の職業適性や将来設計について考えるよい機会となると期待されている活動であるが(文部科学省, 2002)、多くの時間を必要とする活動でもある。そのため、比較的時間の余裕がある2年次に行われることが多いのかもしれない。なお、3年次には生徒の職業意識や職業的アイデンティティを高めるような進路指導活動はほとんど報告されていなかったが、受験指導や就職指導は非常に多く報告されていた(これらの活動は生徒の職業意識を高める活動というよりは、より具体的で直接的な指導であり、本論の趣旨から外れるため、表2には掲載していない)。進路選択を控えた3年生にはこのような具体的な指導も重要であろう。全体的に見て、高等学校における生徒の職業意識を高めるような進路指導活動の数は、中学校におけるそれに比べて少なく(中学校1~3年の活動数は順に、37, 54, 43であった; 戸塚・深田・児玉, 2003)、全ての学年を通して職業意識を高めるような進路指導活動を一つも報告していない学校も多かった(12校)。これは一般的にいて、高校生の方が

より進路選択の時期に直面しているため、具体的・直接的な進路指導（受験指導・就職指導など）により重点をおいているためであろう。ただ、進路選択を目前に控えた高校生にとっても、職業意識を促進するような進路指導活動は重要であると思われる。各人の適性ややりたいことを明らかにする活動、各人が希望する職業の詳細を知るための活動、労働におけるコストや利益を把握し適切に職業選択することができる能力を育成するための活動は、高校生にとってこそ必要なものであろう。進路指導に割り当てることができる時間は限られていると思われるが、高等学校ができるだけ生徒の職業意識を促進するような進路指導活動を行うことを期待したい。

4. 特徴的な活動

レポート内容の集計によって、現在の高等学校における進路指導のおおよその傾向が明らかになった。しかし同じカテゴリーに分類される活動でも内容の詳細は異なっており、表2からでは、それが読み取れない。また高等学校では、「産業社会と人間」等の授業を使って系統的に進路指導活動が行われていることが多く、そのような系統的な組み立て方にこそ特徴が存在すると言えるが、そのような点も表2からでは読み取ることができない。そこで以下では、特徴的で効果的な進路指導活動や特徴的な進路指導の組み立て方を紹介する。

4.1 久美浜高等学校の取り組み

岩月（2003）によると、同校では1年次の生徒全員に「産業社会と人間」という授業を履修させており、この授業の枠組みにおいて主要な進路指導を行っていた（補助資料1）。岩月（2003）は、この授業の枠組みでなされた進路指導活動として、次のようなものを報告している。

- ・自己を知る 独自に作成したワークシート等を用いて自己についての見識を深めさせ、それをもとに自己紹介・将来の夢についてのプレゼンテーションを行わせた。プレゼンテーションに関しては発話やアイコンタクトなどの指導も行った。
- ・職業を知る 職業についての基礎知識を講義した上で、書籍、CD等を利用して数人からなる班で職業調査を行わせた。班でこの活動を実行させることで、生徒が他者の例も参考にして進路志望を広げられるよう配慮されていた。
- ・上級学校を知る 教育実習生からの体験談を導入とし、上級学校の基礎知識についての講義、書籍や雑誌などを使った上級学校調査を経て、上級学校（大学・短大・専門学校）見学を行った。なお就職希望者に対しては企業見学も取り入れたが、視野を広げるため、必ず上級学校も見学させた。
- ・職業について考える 9人の社会人に職業人としての講演を依頼した（補助資料2）。講演依頼は教員が行ったが、企画運営は生徒に委ねた。なおこの活動では、講師から生徒へという一方的な情報伝達ではなく、情報の行き来を重視しており、そのため講師一人あたりの生徒が少数（十数名）になるよう配慮されていた。

上述のように、久美浜高等学校では1年次の「産業社会と人間」において、様々な進路指導活動

が行われていた。これらの活動の多くは、生徒が自主的に調査・企画するものであり、職業教育・進路指導研究会が提唱した「キャリア情報探索・活用能力」を十分に促進するものと思われる。また、同校では2年次には「総合学習」の授業を使って上級学校見学等を、3年次には面接指導（ビジネス系専門学校教員による）等を行っていた。本来的な進路指導が、1年次に偏っている感はあるものの、全体的に見て同校では充実した進路指導が行われているといえるだろう。

4.2 稲築志耕館高等学校の取り組み

緒方（2003）によれば、同校は1年次の「産業社会と人間」の授業を進路指導の基礎にしており、この授業を通して生徒が「自分の適性にあった職業や将来の生活」や「その目標を達成するために必要な道筋」に目を向けるようになることを期待している。緒方（2003）は、この授業の枠組みでなされた進路指導活動として、次のようなものを報告していた。

- ・ 職場研修 生徒を訪問希望場所によって8班に分け、1日2箇所（都市圏の最先端企業、地元の地場産業）を訪問させた。また訪問の前の週には事前準備を、翌週には事後整理を行わせ、クラス内で模造紙やレジュメによる発表を行わせた。
- ・ 上級学校研修 グループごとに1日かけて2校を訪問させた（訪問先は生徒の進路希望に合わせた）。また、事前準備、事後整理もグループごとに行い、パワーポイントなどを用いて発表させた。
- ・ 福祉施設訪問 生徒を15～20人程度に分け、計15施設を訪問させた。1年生以外を担当している職員にも協力を求め、1施設につき教員1～2名で担当した。この結果については、学年発表会を開き発表した（保護者や実習先の人々も招待した）。
- ・ ディベート学習 まずクラスを2グループに分け、それぞれのグループでテーマ（環境問題など）を決定させた。その後、各グループ内で肯定派・否定派に分かれ、ディベートをさせた。片方のグループがディベートをしている際には、もう片方のグループは見学していた。

このように稲築志耕館高等学校の「産業社会と人間」の授業では様々な活動がなされていた。なかでもディベート学習という活動は興味深いものであった。このような活動は職業教育・進路指導研究会が進路指導で育成すべき能力として挙げているコミュニケーション能力（人間関係能力の一部）を育成するのに適していると思われる。様々な進路指導活動を見渡しても、このような能力を促進するような活動は少なく、今後はこの種の活動が他の学校でもなされることが望まれる。また、同校では2～3年次には進路HRの時間に進路ガイダンスなどの活動を、また3年次には課題研究活動などを行って、生徒の職業意識の育成に努めていた。

4.3 日田三隈高等学校の取り組み

竹之下（2003）によると、日田三隈高等学校では進路指導にMikuma PAS System という独自のシステムを取り入れている（補助資料3）。PASのPはPlan, Progressを、AはAction, Achievementを、SはSupportを表している。このシステムは、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「インターシップ」、3年次の「課題研究」を一つの流れとしてとらえるものであり、各学年における生徒の

到達目標や評価の観点を明確にすることで、生徒が3年間の学習を通じて確実に自己の進路目標を達成できるようにするという狙いがある(竹之内, 2003)。以下、この試みを学年ごとに紹介する。

1年次の「産業社会と人間」の授業では、上級学校見学、職場見学、職業調査(「この人に学ぶ」)、外部講師講演などの活動が行われていた。特に「この人に学ぶ」と題された一種の職業調査活動は、興味深い。各生徒は自分が将来就きたいと考えている職業に就いている人、あるいはその人の職業に対する考え方に興味を覚えた人を一人選び、その人の職業やその人の体験などについて調査を行った。調査は、直接対話、電話、手紙、FAXなどで行われ、対象への趣旨説明、依頼、日程調整、取材、礼状の発送は全て各生徒が行った。後日行われた発表会においても、司会進行、発表者への質問、会場の生徒・教員へのインタビューなど全て生徒が行った。同校がこの取り組みを「学び方を学ぶ学習活動」と位置付けている通り、この取り組みは生徒にとってかなり主体的な活動であったように思われる。このような活動は職業教育・進路指導研究会が進路指導で育成すべき能力として挙げているキャリア情報探索・活用能力を十分に促進するだろうと思われる。

2年次にはインターンシップが行われていた。受入れ事業先は、病院、老人ホーム、商店、保育園などであった。事前準備は職場体験実施の4ヶ月前から行われており、十分な事前指導が行われていたように見受けられる。またこの活動に対して、生徒は「実社会の厳しさ、大変さが分かった」「働く人の気持ちや支える家族の気持ちが分かった」「来年の進路を考える参考になった」「目上の人に対する言葉づかいというのは大切なことだと実感した」などのポジティブな感想を寄せており、竹之下(2003)はこの活動の教育効果の大きさに注目している。

3年次には課題研究が行われていた。課題研究とは卒業論文として位置付けられているものであり、生徒一人ひとりが、興味・関心、将来の職業などに基づき、個人ごとにテーマを設定して調査・研究を進めるものであった。担当教師は、調査方法や論文作成法を指導した。生徒は決意表明発表会、中間報告会、ゼミ別発表会などを経て、原稿用紙30枚程度の卒業論文を提出した。竹之下(2003)は、この活動を通して、課題設定能力、意思決定能力、情報活用能力、主体的な判断力、コミュニケーション能力、問題解決能力、表現力、創作能力などが身に付く様子がうかがえると述べている。このような活動は総合的なスキルの向上に貢献すると思われ、高い教育効果が期待できると思われる。ただし、教師・生徒の労力も大きいと予想され、どの学校でもできる活動ではないかもしれない。

また同校では「最終課題」として、「30歳のレポート」という課題を設けていた(補助資料4)。これは「生徒の指導のあり方が適切なものであったかどうかは卒業時点のみで評価されるべきではなく、もっと時間が経った時点でも評価されるべきである」という見解をもとに行われる試みであった。社会人・職業人として一定の立場を得ているだろうと思われる30歳の時に、レポートを書いてもらうという試みは、レポートの書き手だけでなく、そのレポートを読む将来の生徒にとってもポジティブな影響を与えるだろう。

4.4 神埼清明高等学校の取り組み

原口(2003)によると、同校の1年次には、「産業社会と人間」の枠組みにおいて、体験学習(職場見学・上級学校訪問・系列体験など)、講演(社会人、保護者、卒業生による講演)などの活動が

行われていた（ただし、これらの活動の詳細は報告されていなかった）。

また2年次には、セルフプロデュース・インターンシップが行われていた。この活動は、生徒が受け入れ先の検討、交渉、事前打ち合わせ、お礼状の持参などの「企画」「立案」「実施」全てを、自分で自分のためにプロデュースして行うインターンシップである（原口 2003）。このように企画段階から全て生徒が行うインターンシップは、他ではあまり見受けられず、非常に特徴的な活動といえるだろう。このような活動は、生徒にとっては困難な課題かもしれないが、生徒のキャリア設定能力、キャリア情報探索・活用能力、意思決定能力、人間関係能力を十分に促進するものと想像される。同校はこの活動を「人と関わり、コミュニケーション能力の育成を図りつつ、自己実現のために必要なスキルを総合的に学習する場」と位置付けており、原口（2003）は、その効果の大きさと有意義性を述べている。なお、3年次の活動については、特に報告がなかった。

4.5 市立和歌山商業高等学校の取り組み

川本（2003）によると、同校では毎年11月に「市和商デパート」という活動が行われている。これは、一種のフリーマーケットであり、学校の体育館を使い、生徒が仕入・販売・決済を全て取り仕切っている。和歌山県市立和歌山商業高等学校（2003）によれば、この活動では、野菜・魚・電気製品などが販売されており、さらにマグロの解体即売までも行われていた。川本（2003）によれば、同校は、「（生徒が）望ましい勤労感や職業観を身につけ働くことや創造することの喜びを体験し、働くことの意義を確認する」ことを意図してこの活動を行わせている。このような活動は、学校・生徒と地域社会の連携を深め、地域社会に学校の取り組みを理解してもらうのに良い機会であると思われる。

5. まとめ

本研究では、平成15年度進路指導講座で提出されたレポートの内容を整理した上で、それらに記載されていた特徴的な進路指導の試みを紹介した。全体的に見て、高等学校では1年次に講演会、2年次に上級学校訪問の活動が多く行われていることが示唆された（3年次にはあまり活動が見受けられなかった）。ただ、職業意識を高めるような進路指導活動の総数は中学校のそれに比べると少なかった（戸塚ほか、2003で報告されている中学校のその総数は134）。一方で、進学指導（補習・受験相談を含む）や就職斡旋などの活動は比較的多く行われていた（特に3年次に）。進学指導や就職斡旋なども重要で必要な活動だが、卒業を間近に控えた高校生が適切な進路選択をすることができるように、進路選択に関する高校生の内的な能力を促進する活動も重要であろう。自分の適性を知り、自分の就職したいと考える職の長所と短所を考え、職業に就くことで可能となる自分の自己実現を考えるといったことを通して、高校生はより望ましい進路選択が可能となるだろう。そして、そのような適切な進路選択を援助・促進することによって、各個人はより望ましい人生を生きることができるようになり、社会における転職率・離職率も低下するだろうと予想される。今後は、高等学校において職業意識を高めるような進路指導活動がより多く行われることを期待したい。

引用文献

冒頭にアスタリスク（*）が付けられている引用文献は、「学年別の進路指導における各活動内容の割合（表2）」の集計に含まれている文献である。

- *近國敬人 2003 我が校の進路指導—望ましい職業観・勤労観を育成する進路指導を目指して— 平成15年度進路指導講座資料（広島県立河内高等学校、未公開）
- *古川良司 2003 わが校の進路指導—職業観・勤労観を育成するために— 平成15年度進路指導講座資料（島根県立益田産業高等学校、未公開）
- *浜田まや 2003 わが校の進路指導—教員間の連携と個別指導の充実— 平成15年度進路指導講座資料（高知県立四万十高等学校、未公開）
- *原 清一郎 2003 わが校の進路指導—現在の状況と今後の課題— 平成15年度進路指導講座資料（鹿児島県立種子島実業高等学校、未公開）
- *原田尚之 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成15年度進路指導講座資料（長崎県立諫早高等学校、未公開）
- *原口哲哉 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成15年度進路指導講座資料（佐賀県立神埼清明高等学校、未公開）
- *林原邦光 2003 我が校の進路指導—学校統合と進路指導— 平成15年度進路指導講座資料（広島県立因島高等学校、未公開）
- *樋口雅一 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成15年度進路指導講座資料（兵庫県立三木東高等学校、未公開）
- *平野武史 2003 わが校の進路指導—本校の実践と課題— 平成15年度進路指導講座資料（和歌山県立南部高等学校、未公開）
- *末廣弘毅 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成15年度進路指導講座資料（岡山県立和気閑谷高等学校、未公開）
- *井上泰行 2003 我が校の進路指導—職業観・勤労観の育成をめざして— 平成15年度進路指導講座資料（広島県立松永高等学校、未公開）
- *岩月有行 2003 我が校の3年間の進路指導とその実践—『産業社会と人間』の実践を中心に— 平成15年度進路指導講座資料（京都府立久美浜高等学校、未公開）
- *梶山政枝 2003 我が校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成15年度進路指導講座資料（広島県立呉市立呉高等学校、未公開）
- *柏原 裕 2003 我が校の進路指導—確かな学力と進路の実現を目指して— 平成15年度進路指導講座資料（広島県立神辺旭高等学校、未公開）
- *川本智之 2003 わが校の進路指導—市和商の進路指導の現状と課題— 平成15年度進路指導講座資料（和歌山県和歌山市立和歌山商業高等学校、未公開）
- *小林丈展 2003 わが校の進路指導 平成15年度進路指導講座資料（三重県私立日生学園第一高校、

未公刊)

- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について 調査研究報告書
- 厚生労働省 2002 キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書について (参考資料-新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移- <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/h0731-3.html>)
- *熊谷修山 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (島根県立浜田高等学校, 未公刊)
- *桑原真臣 2003 わが校の進路指導-進路指導部行事予定から- 平成 15 年度進路指導講座資料 (大阪府私立近畿大学付属高等学校, 未公刊)
- *松浦哲也 2003 わが校の進路指導-「生徒の意識向上を目標にした進路指導」- 平成 15 年度進路指導講座資料 (岡山県立至道高等学校, 未公刊)
- *三村健一 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (鳥取県立境水産高等学校, 未公刊)
- *宮城 薫 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (沖縄県立球陽高等学校, 未公刊)
- 文部科学省 2002 文部科学白書 (平成 13 年度) 財務省印刷局
- 文部科学省 2003a 平成 15 年度学校基本調査速報 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/index.htm
- 文部科学省 2003b 文部科学白書 (平成 14 年度) 財務省印刷局
- *永山伸夫 2003 わが校の進路指導-地方の普通科高校としての取り組み- 平成 15 年度進路指導講座資料 (宮崎県立小林高等学校, 未公刊)
- *緒方文子 2003 わが校の 3 年間の進路指導とその実践-「産業社会と人間」の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (福岡県立稲築志耕館高等学校, 未公刊)
- 大池 公紀 1998 小・中・高校を一貫する進路指導の在り方- 平成 8・9 年度文部省委託調査研究「最終報告」を中心に- 進路指導, 71(9),26-33.
- *大川順二 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (宮崎県立本庄高等学校, 未公刊)
- *大西好幸 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導- 平成 15 年度進路指導講座資料 (愛媛県立松山南高等学校, 未公刊)
- *大津秀夫 2003 わが校の進路指導-わが校の 3 年間の進路指導とその実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (大阪府立今宮工業高等学校, 未公刊)
- *雑賀 亨 2003 わが校の進路指導-わが校の進路指導計画- 平成 15 年度進路指導講座資料 (和歌山県立新宮高等学校, 未公刊)
- *坂本妃都美 2003 我が校の進路指導-過去 11 年間の取り組み- 平成 15 年度進路指導講座資料 (熊本県立第二高等学校, 未公刊)
- *坂田 昌 2003 わが校の進路指導-計画的・組織的な進路指導の実践- 平成 15 年度進路指導講座資料 (滋賀県立守山高等学校, 未公刊)

- *柴田昌平 2003 わが校の進路指導—進路指導の体系化を目指して— 平成 15 年度進路指導講座資料 (京都府私立東山高等学校, 未公開)
- 仙崎 武 1998 小・中・高校を一貫する進路指導の在り方— 平成 8・9 年度文部省委託調査研究「最終報告」を中心に— 進路指導, 71(9), 3-8.
- *下手利蔵 2003 我が校の進路指導—一人ひとりの進路実現— 平成 15 年度進路指導講座資料 (広島県立廿日市西高等学校, 未公開)
- *高橋大介 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な就職・進路指導の実践— 平成 15 年度進路指導講座資料 (京都府京都市立洛陽工業高等学校, 未公開)
- *高野公英 2003 わが校の進路指導—「産業社会と人間」の概要及び就職指導上の課題— 平成 15 年度進路指導講座資料 (徳島県立城西高等学校, 未公開)
- *高瀬隆広 2003 わが校の進路指導—通信制課程の進路指導, 現状と課題— 平成 15 年度進路指導講座資料 (高知県立高知北高等学校, 未公開)
- *竹中 仁 2003 わが校の進路指導—多角的人間形成と計画的進路指導— 平成 15 年度進路指導講座資料 (滋賀県立八日市高等学校, 未公開)
- *竹之下裕司 2003 わが校の進路指導—"MikumaPasSystem"を柱とした「生きる力」を育成する進路指導— 平成 15 年度進路指導講座資料 (大分県立日田三隅高等学校, 未公開)
- *辻野藤樹 2003 我が校の進路指導—工業高校における広島県東部の拠点校の確立を目指して— 平成 15 年度進路指導講座資料 (広島県立福山工業高等学校, 未公開)
- 戸塚唯氏・深田博己・児玉真樹子 2003 中学校における進路指導の実践—平成 15 年度進路指導講座資料の分析— 広島大学心理学研究, 3, 印刷中.
- 和歌山県市立和歌山商業高等学校 2003 学校行事—市和商デパート— <http://www.shiwasho.com/>
- *山田 久 2003 わが校の進路指導—「計画的・組織的な進路指導の実践」— 平成 15 年度進路指導講座資料 (香川県立高松北高等学校, 未公開)
- *山本敏明 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成 15 年度進路指導講座資料 (愛媛県立今治北高等学校, 未公開)
- *山添光一 2003 我が校の進路指導—柔軟かつ積極的な進路指導: 計画的・組織的・系統的な進路指導の実践— 平成 15 年度進路指導講座資料 (奈良県立高田高等学校, 未公開)
- *與那覇健勇 2003 わが校の進路指導—夢の実現できる学校を目指して— 平成 15 年度進路指導講座資料 (沖縄県立読谷高等学校, 未公開)
- *吉本 晃 2003 わが校の進路指導—計画的・組織的な進路指導の実践— 平成 15 年度進路指導講座資料 (山口県立新南陽高等学校, 未公開)

補助資料

以下の補助資料は、岩月 (2003) および竹之下 (2003) に掲載されていた資料をできるだけ忠実に転記したものである。

補助資料1

「産業社会と人間」年間授業展開

回	月	時	学習項目	担当者	学習形態	場所
1	4	1	総合学科を知る①	学校長	講演・学年一斉	AV室
		2	総合学科をめざすもの 「産業社会と人間」とは	担任・副担	講義・HR一斉	HR
2	3	3	自己を知る①	担任・副担	作業・HR個別	HR
		4	自己を見つめる 自己発見リサーチの分析		班別	
3	5	5	自己を知る②	担任・副担	作業・HR個別	HR
		6	スピーチ原稿の作成			
4	5	7	自己を知る③	担任・副担	発表・HR半分	HR他
		8	2分間スピーチ		一斉	
5	9	9	職業を知る①	担任・副担	発表・HR一斉	HR
		10	職業に関する基礎知識		学年一斉	AV室他
6	11	11	職業を知る②	担任・副担	作業・HR個別	HR
		12	職業に関する調査 進路資料・CD-ROMをつかって		班別	LL教室他
7	6	13	上級学校を知る①	教育実習生	講演・学年一斉	AV室他
		14	大学生活とは 上級学校に関する基礎知識	担任・副担	講義・HR一斉	HR
8	15	15	上級学校を知る②	担任・副担	講演・学年一斉	HR
		16	就職と進学の現実 大学で学ぶこと		講義・HR個別	
9	17	17	履修計画の作成①	教務・教科	講演・学年一斉	HR
		18	選択科目仮登録説明会	担任・副担	講義・HR一斉	
10	19	19	履修計画の作成②	担任・副担	面談・HR個別	HR
		20	選択科目仮登録相談会			
11	7	21	履修計画の作成③	担任・副担	面談・HR個別	HR
		22	選択科目仮登録相談会			
12	23	23	上級学校を知る③	担任・副担	講義・HR一斉	HR
		24	上級学校見学会に向けて		作業・HR個別	
13		上級学校を知る④	担任・副担	体験・進路別	校外	
			上級学校見学会 (特別時間割・1日利用)			
14	9	25	履修計画の作成④	教務・進路	講義・学年一斉	AV室
		26	選択科目本登録に向けて	担任・副担	HR一斉	HR
15	27	27	履修計画の作成⑤	教科	面談・HR個別	HR
		28	選択科目本登録相談会	担任・副担		
16	10	29	進路について考える	進路部	講義・進路別	AV室
		30	分野別進路説明会 他	担任・副担	作業・HR個別	HR
17	31	31	人権について考える①	福祉科主任	講義・学年一斉	AV室
		32	高齢者福祉と障害者福祉 私たちの町再発見	担任・副担		HR
18	33	33	人権について考える②	担任・副担	体験・施設別	校外
		34	福祉施設訪問			
19	11	35	人権について考える③	担任・副担	体験・HR個別	HR他
		36	視覚障害者ガイドヘルプ実習			
20	37	37	人権について考える④	外部講師	講演・学年一斉	AV室
		38	「まちのようなホーム ホームのようなまち」	担任・副担		
21	39	39	人権について考える⑤	担任・副担	発表・HR一斉	HR
		40	福祉施設訪問報告会			
22	12	41	職業について考える①	担任・副担	講義・学年一斉	AV室
		42	社会人との交流会に向けて		HR一斉	HR
23	1	43	職業について考える②	担任・副担	作業・講座別	HR他
		44	交流会の準備			
24	45	45	職業について考える③	担任・副担	作業・講座別	HR他
		46	交流会の準備			
25	2	47	職業について考える④	担任・副担	作業・講座別	HR他
		48	交流会の準備			
26	49	49	職業について考える⑤	担任・副担	体験・講座別	HR他
		50	社会人との交流会			
27	51	51	職業について考える⑥	担任・副担	発表HR一斉	HR
		52	交流会の報告			

補助資料 2

学習主題 職業について考える② 交流会の準備 I		
学習の目標		
①「社会人との交流会」に向けて、講座や班で協力しあって、積極的に取り組もうという雰囲気を作り上げる。 ②交流会に向けて、役割分担を明確にし、見通しをもって活動できるように、計画を立てる。		
学習の展開		
時間	学習項目	学習内容
20分	【導入】 1 趣旨説明	<p>*以下の展開は一例であり、各講座の指導教員が、生徒や講師の職種などを配慮して、独自の展開を工夫する。</p> <p>1 趣旨説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員が、交流会の意義・目的や、活動の内容について簡単に確認する。→ハード的制約を確認させる ア) 本校の空き教室で実施。 イ) VTR等の機器は使用可能だが、数に制限がある。 ウ) 使える時間は、80分程度。30分程度は講師の講演。 エ) 予算として各講座に5000円配付。 <p>→講師が気持ちよく話せる環境を作るように指導する。</p> <p>2 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒が、なぜこの講座に参加したのか、その動機を考えて、メモを作る。箇条書きでよい。 講座のほかのメンバーに自己紹介を兼ねてメモを発表する。 他のメンバーの話聞き、学習ノートに記録する。
30分	【展開】 1 班編成と役割分担	<p>1 班編成と役割分担</p> <p>①各講座毎に班を編成する。各班の人数は、講座毎に決める。 ②各班の役割を決める。各班の役割を大まかに説明する。 <参考>昨年度のある講座の例 a 司会・進行班 b 質問班 c 初めのあいさつ班 d 終わりのあいさつ班 e 礼状班 f 会場準備班</p> <p>③班内の責任者を決める。a 班長（指導教員との連絡・調整）、b 記録（班活動の記録作成）は、最低必要。</p>
20分	2 活動計画の作成	<p>2 活動計画の作成</p> <p>①判別の学習ノートを配布する。 ②学習ノートに従い、各班で今後行わなければならない作業をリストアップする。その際、各作業の責任者と、作業完成の締切を考えさせる。</p>
20分	3 講師の横顔紹介	<p>3 講師の横顔紹介</p> <p>①各講座の指導教員が、事前に講師と面談し、取組の趣旨を説明しておく。面談の経験に基づき、講師やその職場の様子を紹介する。これを基に、質問等を考えさせるので、具体的なイメージや疑問がわくように留意する。 ②各班で話し合っ、講師やその職場について、聞いてみたいこと、わからないこと、質問事項等を考える。最低5～10個ぐらいいは考えさせたい。→質問班の基礎資料となる。 ③「2」「3」の内容は、班内の記録係が責任をもって整理し、記録するように指導する。</p>
10分	【まとめ】	<p>①班別学習ノートに、本時の活動記録を整理し、提出する。 ②個人ノートに、感想及び今後の期待・抱負等を書き、提出する。</p>
各班の進行に応じて、必要なら「司会・進行の手引き」「あいさつの手引き」「礼状作成の手引き」「会場準備の手引き」等の資料や原稿用紙などを配布する。		

補助資料 2 (つづき)

評価と評価法 (学習ノートの評価視点)	
知識・理解 技能	a 自己及び自己の属する班の役割を理解し、作業を進めることができたか。 →班ノート・授業中の観察に基づき 5 段階評価
意欲・関心 態度	b 班の活動に協力し、意欲的に活動に取り組んだか。 →授業中の観察・個人ノートの感想等に基づき 5 段階評価
<p>★単元「職業について考える」の評価について</p> <p>この単元では、各講座ごとに毎時の活動内容が異なるため、下記の材料をもとに、交流会終了後、総合的に評価する。各項の配分は別に定める。</p> <p>①個人に対する評価：個人用学習ノートや授業中の一人ひとりに対する観察に基づく →毎回統一様式 (B5 版程度) の学習ノート(毎時の感想文)を提出させる。</p> <p>②班全体に対する評価：班別学習ノートや班の活動状況の観察に基づく</p> <p>③実際に交流会で活動・発表した内容</p> <p>④交流会終了後の報告・感想文</p>	

学習主題	職業について考える⑤ 社会人との交流会
------	---------------------

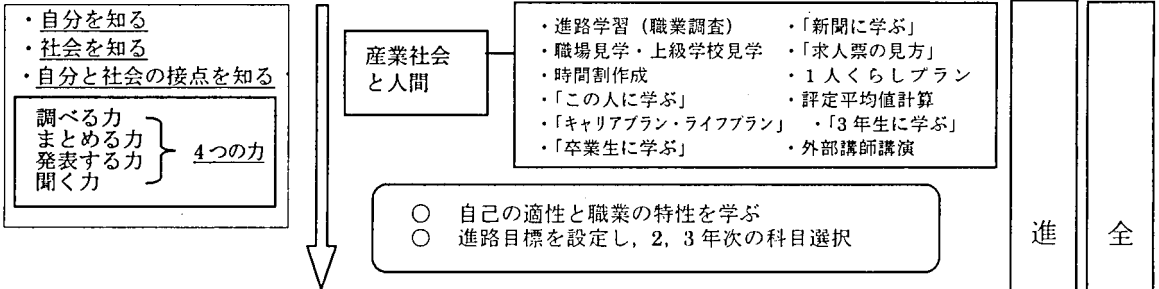
学習の目標
<p>① 生徒一人一人が、社会人の生き方に接することにより、勤労の意義について考えを深め、適切な職業観を育成する。</p> <p>② 職場の第一線で活躍している社会人の体験を聞くことにより、自己の将来の進路について真剣に考える態度を育成する。</p> <p>③ 生徒各自が、興味・関心を持つ職業の実際の内容や職場の様子について、理解を深める。</p>

学習の展開
<p>1 講演内容 (下記の内容を 30 分程度で講演してもらうように事前依頼したが、個別交渉によって変更した講座もある。)</p> <p>あ 私の進路選択 (どうしてこの職業に就いたのか、その体験談)</p> <p>い 私の仕事 (勤務先の事業所の業務・社会的役割。講師がどのような仕事を実際にしているのか。興味深いエピソードや苦労話等)</p> <p>う 勤労の意義 (働くことにどのような生きがいを感じるか。職業人としての成長)</p> <p>え 高校生への提言 (社会人として、講師から高校生へのアドバイスや要望)</p> <p>2 講師 ①保育士、②社会福祉士、③理学療法士、④調理師、⑤公務員、⑥新聞記者、⑦技術者、⑧美容師、⑨旅行ガイド</p> <p>3 標準的展開 ①初めの挨拶 (10 分) →②講演 (30 分) →③質疑応答・実習など独自企画 (30 分) →④終わりの挨拶 (10 分)</p>

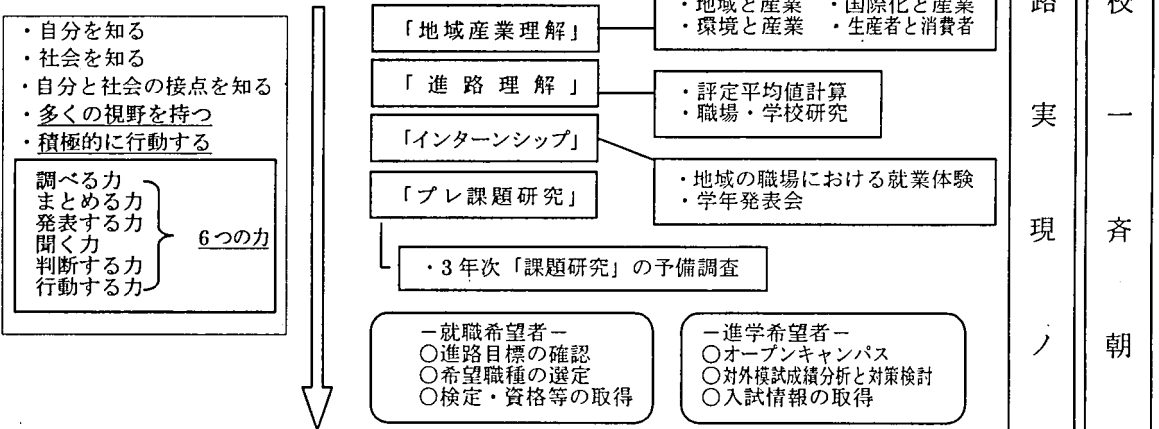
M i k u m a “ P A S ” S y s t e m

“P” は Plan (計画), Progress (進歩) を表しています！
 “A” は Action (行動), Achievement (達成) 日田三隈高校の3年間で、あなたの
 “S” は Support (援助) 「未来予想図」を応援します！

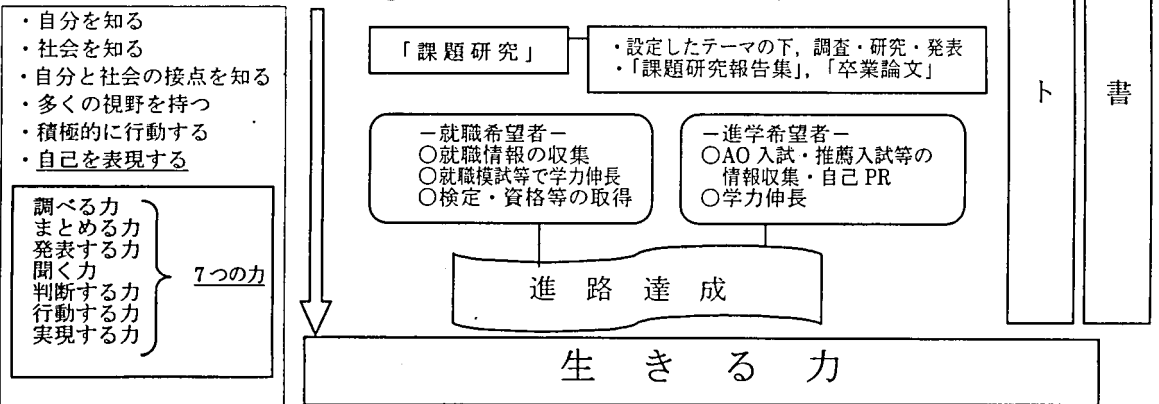
・ 1 年次 “First Stage”



・ 2 年次 “Second Stage”



・ 3 年次 “Final Stage”



総合学科 最終課題

次のページに記入し、ミシン線より切り取って、以下の通りの通り提出して下さい。

提出期間：平成 27 年（2015 年）3 月 1 日～3 月 31 日

しめきり厳守！！

提出先：〒××××××××

大分県日田市・・・

大分県立日田三隈高等学校「あなたの夢応援します」係

TEL 0973-23-××××

FAX 0973-23-××××

メール・・・・・・

テーマの例：

- ◇ 私の足跡を振り返る
- ◇ 波乱万丈の我が半生
- ◇ 職業人として生きる
- ◇ 現役高校生に送る言葉 etc.
-自由に設定してください。

その他：

- ◇ 黒ペンではっきりと、丁寧に書いて下さい。
- ◇ 用紙が No.1 で足りない場合は、No.2 も使って下さい。
- ◇ それでも足りない場合は、No.2 をコピーして足してください。
- ◇ 難しく考えずに、その時考えたことを自由に書いて下さい。

このレポートは、集約して冊子にするか、あるいは一人ひとりにコメントやメッセージを送るなどして、応募の仕方を検討しています。楽しみにしていてください。

組・番号	元 3 年 組 番 (総合学科第 5 期生：2003 年 3 月卒業)
氏名	* 冊子にする場合、匿名を (希望する・希望しない) ← どちらかに○
現住所	
高校生の時に目指した職業	
現在の職業	

《レポート》

テーマ